

基本的生活習慣の因子構造

一性差について

埼玉大学教育学部 藤巻公裕

目的

幼児期の基本的生活習慣について、これまでの多くの報告をみると、性差のあることが指摘され、藤江ら(1976)によれば一般的になると女児が優位であると指摘している。こういった結果の報告は多くの場合基本的生活習慣に関する行動項目の通過率やカテゴリーコードにまとめた合計得点などから分析されている割合が多いが、さまたまな側面でせんの発達が男児をしのぐといつても、その構造は男女とも同じものであるのか、それとも異なっているのかといったことについては必ずしも明確にはされておらず、不明な点も多い。

そこで本研究では、基本的生活習慣の性差について因子分析的に検討を加えようものである。

方法

測定項目は幼児の一日の生活の中で習慣的にあらわれ、かつ具体的な場面での行動内容に関するものについて、幼児発達検査(田中教育研究所)の中から42項目がえらばれ、昭和55年9月に測定された。

これらの項目について、項目間の負相関係数が求められ、共通性は非対角成分のうち各行の最大値を用い完全セントロイド法が適用された後、バリューワクス解か求められた。

被検者は埼玉県三郷市の某幼稚園児150名(男65名、各年令50名、男児78名、女児72名)である。

結果と考察

表は求められた8つの因子の負荷量を示したものである(各欄の左側は変数番号、右側は因子負荷量)。

はじめに男児についてみていくと、オ1因子に高い負荷を示している変数は、35食事の前に手を洗う、36外から帰る時、手を自分で洗う、15トイレのあとは手で手をよく洗うなどの項目であり、清潔の習慣行動の因子と考えられる。オ2因子では、13大便是1人で完全にできる、17大便のあとをきらんと小さく、11おしゃべりは1人で完全にできることに負荷が高く、排泄処理の因子と考えられる。オ3因子では、28だいたい決、お時間にねる、29だいたい決、お時間に目をさす、4朝あさととき自分で顔をあらうなどに負荷量が高いことから、入眠・覚醒時にかける適応行動の因子

と考えられる。オ4因子では、20ぬぐくねると寝床にいて1人でねる、26だれかつけていないくともひとりでねむけるなどの項目に負荷が高く、睡眠に関する因子と考えられるが、その特徴は今までの行動が1人できることであり、睡眠の自己独立性の因子と考えられる。

オ5因子では、38ご飯を残さないできれいにをべるよごれたら自分からすすんで手を洗うなどに負荷量が高く、行動や事態に対する適切な判断と適応を中心としたものであることから、行動の自己独立性の因子と考えられる。

オ6因子では、16おみははしない、18夜中にあしゃくつかなくともすむ、31めざめたらさげんよくあきるなどに負荷量が高く、排泄や睡眠時の自己制約力に関する因子と考えられる。オ7因子では23めいた着物は生らんと整頓する、10洋服で衣類ハンカチできらんとふく、7自分の洋服やハンカチのよごれを気にする、5鼻かでたらいわれないでも自分でできらんとかむなどとの項目に負荷が高く、身辺整理に関する清潔の因子と考えられる。オ8因子は食事に関する項目や睡眠に関する行動、その他異種の行動に関するものから成っており解釈ができない。

次に女児についてみると、オ1因子では、14おとびに夢中にな、でももうまことはない、31めざめたらさげんよくあきるなどの、今までの項目が含まれ、基本的習慣行動の全般にわたっている。オ2因子では、27ぬくねる時は自分でぬまきに着かえる、10ひとりで歯ブラシをつかって歯をみがく、51んかのびたらうつてくれといひにくくなじかられており、身体の清潔維持に関する因子と考えられる。オ3因子では、35トイレのあととはひとりでよく手を洗う、2よごれたら自分で手を洗うなどに負荷が高く、身辺整理に関する清潔の因子と考えられる。オ4因子では、25「おやすみねこへ」とおひきをしてねる、17大便のあとをきらんと小さく、35食事の前に手を洗うなどの項目に負荷が高く、これらの項目と共に共通するとはある行動の開始前、終了後の行動の適切な判断力を示している。オ5因子では、29だいたい決、お時間に目をさす、33フトンに入、からすぐぬくくなどの項目に負荷が高く

睡眠の規則性の因子と考えられる。オル因子では、42題の骨などをよりわけて食べる、41食事を口に入れたままでは苦りない、40をえられたものは好き嫌いなく食べるなど、食事に関する行動の項目に負荷が高いことから、食事の因子と考えられる。オク因子では、11おし、こは1人で完全にできる、12トイレについても便器や衣服をよごすなど、項目に負荷が高く、排泄の因子と考えられる。オク因子では、26おむかつへていなくてもひとりでねむれ、かねむくなると寝床にへ、ひとりでねるなど、項目に負荷が高く、睡眠の独立性の因子と考えられる。

以上のような結果から、男女の因子をもと比較

してみると、食事に関する因子は女性より男児の因子にはあらわれていない。またせんのオク因子のようないくつかの因子は男児とはみられない。

しかし男児のオク因子と女性のオク因子はともに排泄行動に関するもので似ており、男児のオク因子（睡眠の独立性）と女性のオク因子は両者ともよく一致している。

以上のようなことから、いくつかの因子については男女間に類似したもののみとみられるが、オク因子論的傾向で両者の因子構造は異なりといつてよいであろう。

表1 基本的生活習慣の因子負荷量（男児）

F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8
35 679	13 -742	28 -671	30 781	38 635	16 -613	23 501	41 533
3 628	17 -630	29 -595	26 652	12 620	18 -603	10 457	37 -436
15 559	11 -565	4 -417	42 392	36 584	31 -564	7 431	6 -384
10 393	21 -352	34 377	33 375	2 385	33 -501	5 395	2 -378
8 387	39 -343	18 -351	32 318	23 340	14 -428	9 387	25 -341
4 384	12 -322	27 -350	19 314	34 339		19 365	8 -330
39 384		21 -317		3 336		6 325	
22 324		25 -309		20 324			
E.V.	2.69	2.07	2.30	2.29	2.45	2.13	1.68
							1.52

表2 基本的生活習慣の因子負荷量（女児）

F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8
14 606	27 724	15 786	25 -628	29 686	42 585	11 -921	26 601
31 601	1 703	2 520	17 -492	33 679	41 573	12 -921	30 588
16 556	6 621	22 429	35 -403	28 449	8 553	32 -352	13 414
38 492	10 464	7 429	18 -358	18 332	40 508	21 -332	32 392
18 414	7 430	37 423	23 -354		36 448	16 -322	
36 367	39 394	20 363			38 420	19 -300	
7 355	35 330	5 362			39 375		
39 353		16 -349			5 349		
10 321		35 308			3 330		
39 320		21 307			23 329		
					39 320		
					4 317		
					9 300		
E.V.	2.34	2.70	1.52	2.03	1.50	1.54	1.52
							1.55